

推薦の言葉

新臨床研修制度が始まって以来、研修医は大学病院や市中の基幹病院において短期間で様々な診療科をローテート研修しながらその後の医師としてのキャリアを決めていくようになった。この制度は功罪相半ばであり、広く浅く研修を積むことになるため、各領域の重要な教科書、手引き書を精読して身につける暇を見つけることは実際には不可能と考えられる。おそらく研修医あるいは若手医師は毎日多くの受け持ち患者を抱え、先輩医師に診断、治療方針の決定の過程を相談し、手を動かすだけで毎日が過ぎてゆくだけであろう。カンファレンスの合間や、通勤時間中あるいは夜寝る前のわずかな時間に、日頃の臨床に関する疑問を答えてくれる家庭教師的な指導医がいてほしいと思っているはずである。

このような環境の下、主に研修医、若手医師を読者対象とし、症例検討を通じて診療現場で感じる疑問に答え、循環器の診療に自信をもって対応できるようにと、本書は企画された。編者の香坂俊先生は現在慶應義塾大学循環器内科講師として、大規模臨床レジストリー研究を主導しているが、こうした臨床研究の傍ら研修医や若手医師を対象として循環器領域の勉強会を主催し、若手医師の間から絶大な信頼を得ている逸材である。香坂君は初期臨床研修の時代から10年以上を米国でトレーニングを積み、米国式の若手医師教育のノウハウを日本に持ち帰った。そのユニークな視点は若手医師から見て大変理解しやすく、共感を得るものとなっている。本書は香坂講師を初めとした先生方が若手医師の教育セミナーであるCADETでレクチャーをした内容をまとめたものである。研修医、若手医師が日頃感じている疑問をわかりやすく解説しており、大変読みやすいので多忙な生活の中でも読破できるものになっている。本書を手にした先生方が晴れやかな気持ちでまた明日の臨床現場で活躍できることを祈念するものである。

2013年3月

慶應義塾大学医学部循環器内科教授

福田恵一